
2008年 TOKYO FM コミュニケーションズ・グループ年賀式
～2008年1月7日(月)午前10時30分 TOKYO FMホール～

<代表取締役会長 後藤 亘 挨拶>

メディア激変の時代を迎え、私は今後の方向性について、メガメディアVSコミュニティメディア、ゴージャスメディアVSコンビニエンスメディア、大衆エンタテインメントメディアVS知的メディアといったように、2極分化の方向に進むのではないかと想定をしています。

このような厳しい状況の中から脱却していくために必要なことは、まず1つめは、“全て原点返し”をすることです。それは例えば、番組制作においては、シンプルで人の心に刺さるコンテンツづくりをすること、営業部門においては、1人1人が企画提案型の営業プロデューサーとなること、事業部門においては、パブリシティとして意義のある企画を第一価値として実現させること、管理部門においては、コンピュータに頼り過ぎることなく、シンプルな管理を心がけることです。

2つめは、インターネットや携帯電話などが普及して便利になり過ぎた社会の中で横着になることを、自分の意思でやめるといことです。現場を歩いて見聞きし、人に会って顔を見ながら情報を得て、肌で感じる必要があります。クリエイティブは自分の足と情感が創り出すものなのです。

そして3つめは、「分かりません」「出来ません」「～がありません」という言葉を言わない習慣をつくることです。この3つのフレーズは、人のコミュニケーションを遮断するものであり、そこからは何も生まれませんからです。

以上を、本日までご出席の関連企業の皆さんとも共通の認識として、共に新しい年に向かって挑戦していきたいと存じております。

<代表取締役社長 富木田 道臣 挨拶>

放送法が改正施行される本年、そして2年後に開局40周年となる2010年を迎えるにあたり、あらゆる面での企画力を強化し、社会的に有益な、そして多くの人々から支持されるメディアとなるべく、企業価値の創造に努めていかなければなりません。

本年5月には、マルチメディア放送の方向性が総務省より示される予定であり、新たなメディアづくりへの道筋が見えてくることとなります。当社グループにとって、3セグメントマルチメディア放送の確立が新しいラジオ時代をつくる最大の経営課題であることは言うまでもありません。この1年、当社の企業文化である“開発とチャレンジ”のDNAを奮い立たせ、新たな局面へ向けての徹底した構造改革を成し遂げ、希望に満ち溢れた未来を掴みたいと考えております。そのためには、全社員が同じ思いを持ち、積極的に自己革新をはかり、グループ各社の結束を強化し、メディア価値の最大化に集中することが求められて参ります。1人で見える夢はただの夢、仲間と見る夢は現実です。仲間を信じ、ひとつの方向に向かう思いが強ければ、必ず未来を切り拓いていけるものと信じています。

そして、新たなメディアづくり、新たなラジオ時代をつくるには、現状のエフエム放送を聴取者第一主義のもと、コンテンツの魅力をもっと高めるとともに、十分な収益をあげていくことが必要です。昨年は、広告主、広告会社とのコラボレーションの活性化により、様々な企業ブランドを高める番組が誕生しました。感動のコンテンツを発信し、聴取者の共感を得るとい当社理念の具現化が着々と進み、消費者の琴線に触れる企業メッセージを伝達できるメディア、また、深く伝えることの出来る知的メディアという評価をいただけるようになりました。本年もこの方向を堅持し、新たなアイデアや革新的な行動をもって、質の高い番組開発、各種企画の開発に努め、感動のコンテンツで埋め尽くせるよう期待するものであります。